

笑って歌う門には福来る

発足20周年記念 自主教室「コーラスさくら」自分たちへのご褒美コンサート

今回は、河西公民館を拠点に、毎月2回はつらつとした歌声でコーラスを楽しむ「コーラスさくら」と指導者の江川典子さんを取材しました。



20周年記念コンサートでは14曲を熱唱(市民ホール)

「コーラスさくら」は発足20周年を迎え、3月に記念の初コンサートを開催しました。



「声を出して健康になろう」地域で生まれて自主教室に

河西公民館の自主教室「コーラスさくら」が発足20周年を迎え、3月に20周年記念コンサートを開催しました。頑張ってきた自分たちへのご褒美的なチャレンジでしたが、予想に反してたくさんの方が来てくれて、市民ホール小ホールは満員。うれしくも緊張の晴れ舞台となりました。

コーラスさくらは河西公民館の自主教室ですが、発足したのはそれより少し前のことです。

笠原町の「近所さんが「大きな声を出すのは健康にいいね」と、自治会館でコーラスを楽しむことになりました。グループの名前も、近隣で有名な「笠原校公園の桜並木」から付けました。

集まったメンバーは数人、初心者ばかりで楽譜も音符も読めませんでした。そこで誰か指導者という話になり、野洲市や大津市でもコーラスの指導をしている偉い先生だなんて知らず、こちらも「近所さんだった江川典子さん」にお願いしました。

練習日は違いましたが、小学生など子どものジュニアコーラ

メンバーの横田さんの孫娘が友情出演。満員の観客を前に、晴れのステージで歌い上げました。



大きな声を出すコーラスは健康にいい。練習は仲間と楽しく真剣に、ちよつとずつ上達を目指して。



スも同時に発足(現在は休止中)しました。

家族や自治会の人たちも、初めは「あいつら遊んどるな」と見ていたそうですが、続けていくうちに、地元の敬老会などと呼ばれるようになるようになりました。ジュニアコーラスと合同で「学区民のつどい」や「市音楽祭」にも出場。ファミリーコーラスのようだと好評で、公民館の自主教室として、学区全域からメンバーを募るようになってきました。

前向きに、明るく楽しく自分たちのサウンドを

現在のメンバーは50〜80歳代の16人。ずっと10人前後でしたが、コロナ禍の後、ぐぐつと増えたそうです。緊急事態宣言などで活動できない時もありましたが、窓を開け放し、コーラス用のマスクを購入するなどの工夫をして、できる限り練習を続けました。ソーシャルディスタンスで人と人の関わりが激減する中で、練習の時間が心のオアシスだったそうです。

指導者の江川さんは「コーラスさくらの魅力は、全員前向きで明るいことです。後ろ向きの人が誰もいません。コロナ禍で

は、メンバーたちの歌声が一層魅力的に見えたのかもしれないねと話していました。グループ代表の大島弘子さんをはじめ、メンバーは逆に「明るい江川先生の魅力が続いてきたのだと思います。他の教室や指導者は考えられませんが」と声をそろえます。

月2回の練習は簡単ストレッチと発声練習から始まり、季節の歌、合唱曲など真剣そのものの。でも、江川さんは指導する言葉の端々にユーモアを交えて笑顔を誘います。メンバーたちは「元氣とエネルギーをもらう」「ボケ封じ」など参加する理由を話してくれませんが、結局楽しいのよという言葉に行きつくようです。20周年コンサートを聴いて入団したという新しい仲間も笑顔で歌っていました。

江川さんと大島さんは「コーラスさくらは、発足から変わらないメンバーも新しいメンバーもいます。20年がたつて初期メンバーは高齢になりましたが、『親睦』『健康』『やりがい』と初心の目的を忘れずに、これからも仲間を増やし、少しずつでも上達を目指して『コーラスさくら』のサウンドを作り上げていきたい」と話していました。

